

館林市史 刊行案内

刊行書名	内容
通史編	◇原始・古代・中世 ◇近世 ◇近代・現代
特別編	◆第1巻 館林とツツジ ※既刊 ◆第2巻 絵図と地図にみる館林※既刊 ◆第3巻 館林の自然と生きもの※既刊 ◆第4巻 館林城と中近世の遺跡※既刊 ◇民俗 ◇建造物 ◇芸術文化
資料編	◆1原始古代<館林の遺跡と古代史> ※今回配本 ◆2中世<佐貫荘と戦国の館林>※既刊 ◇3近世I<館林城と藩政> ◆4近世II<館林の城下町と村>※既刊 ◇5近現代I<産業とくらし> ◆6近現代II<鉱毒事件と戦争の記録>※既刊

※テーマ名は変更あり

館林市史購入のご案内

お申し込み方法

販売窓口：下記でご購入できます。

場 所	取り扱い
館林市史編さんセンター(第二資料館) 館林市文化会館 館林市役所総合案内(1階)	月～金曜日
田山花袋記念文学館 向井千秋記念子ども科学館	休館日(月曜・祝日の翌日)を除く
館林市立図書館 館林市第一資料館	休館日(月曜・祝日の翌日・月末整理日)を除く
群馬県立館林美術館ミュージアムショップ	休館日(月曜・祝日の翌日)を除く ※一部展示替による臨時休館日を除く
館林市内の書店 (ケツカ書店・聞声堂書店・みにく書房)	

◆郵送の場合

遠隔地の方は郵便振替による購入ができます。
電話・FAX・Eメールで下記にお申し込みください。

〒374-0018 群馬県館林市城町 2-3(館林市第二資料館内)

館林市史編さんセンター

TEL・FAX 0276-76-7651

E-mail shishihensan@city.tatebayashi.gunma.jp



『館林市史』は、通史編3巻・特別編7巻・資料編6巻の全16巻を刊行する予定です。館林の自然、歴史、民俗などさまざまな分野から、特色ある文化遺産を紹介し、未来へ伝えていきます。



『館林市史』特別編第1～4巻、資料編

資料編1 原始古代

館林の遺跡と古代史

発刊のご案内

発掘調査によって明らかにされた
旧石器・縄文・弥生・古墳時代の
遺跡約80か所の全貌と
古代邑楽郡に関する文献史料を集大成!



◆第8回配本

資料編1 原始古代
館林の遺跡と古代史

B5判 600ページ(カラー450ページ)
3,000円

館林市史

一万六千年以上も前から、この館林の大地に私たちの祖先は暮らしてきました。その足跡を刻む数多くの遺跡からは、当時の住まいや古墳、さまざまな土器や石器などが数多く発見されています。さらに、古代の文献史料には、館林を含む邑楽郡の成り立ちや古代の人びとの生活や信仰のようすが記述され、謎に満ちた古代史の世界へといざなってくれます。

【第一部】館林の遺跡—考古資料—

◆館林市域には、旧石器時代から縄文・弥生・古墳・奈良・平安、そして中近世にいたるまでの遺跡が一四五か所確認されています。これまで約八〇か所の遺跡が発掘調査され、竪穴住居などの遺構や石器・土器などの遺物が数多く発見されました。ここでは、発掘調査によって明らかになった遺構や遺物を、多くのカラー写真と図版で解説します。

第1章 発掘調査された遺跡

- 中央部・北東部の遺跡(加法師遺跡 大島下悪途遺跡など)
- 南東部の遺跡(大袋遺跡・道満遺跡・間堀遺跡など)
- 南西部の遺跡(大原道東遺跡・北近藤遺跡・南近藤遺跡など)
- 北西部の遺跡(山神脇遺跡 外和田遺跡・八方遺跡など)

第2章 館林の古墳

- 館林市内の古墳(山王山古墳・洲ノ上古墳・天神二子古墳など)
- 『上毛古墳綜覧』にみる館林の古墳

第3章 飯塚多右衛門と考古学

- 飯塚多右衛門の研究活動
- 飯塚多右衛門の収集資料

【第二部】古代の邑楽郡—文献史料—

◆館林を含む邑楽郡の成立は、約一三〇〇年前とされています。「大荒城」と記された地名が、やがて「邑楽」へと変化し、古代の文献史料に登場してきます。邑楽郡を中心とした約一六〇点の文献をひも解きながら、古代社会と人びとの暮らしのようすを解説します。

第1章 邑楽郡のできごと

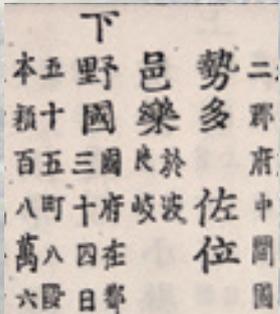
- 邑楽郡の呼び名
- 伊奈良の沼の大蘆草
- 四つの郷
- 邑楽郡の郡家
- 郡境をめぐる論争 など

第2章 社会の動きと人びとの暮らし

- 国と郡の政治
- さまざまな税
- 暮らしと祭り など

第3章 長柄の郷と社

第4章 掘り出された古代の文字



▲『倭名類聚抄』に記された「邑楽」



▲洲ノ上古墳の石室



▲古墳時代の竪穴住居跡(カマド)
(北近藤第一地点遺跡)



▲縄文時代の耳飾りと土錘
(大原道東遺跡、上ノ前遺跡出土)



▲旧石器時代の石器
(山神脇遺跡、大袋Ⅰ・Ⅱ遺跡ほか出土)